第2回

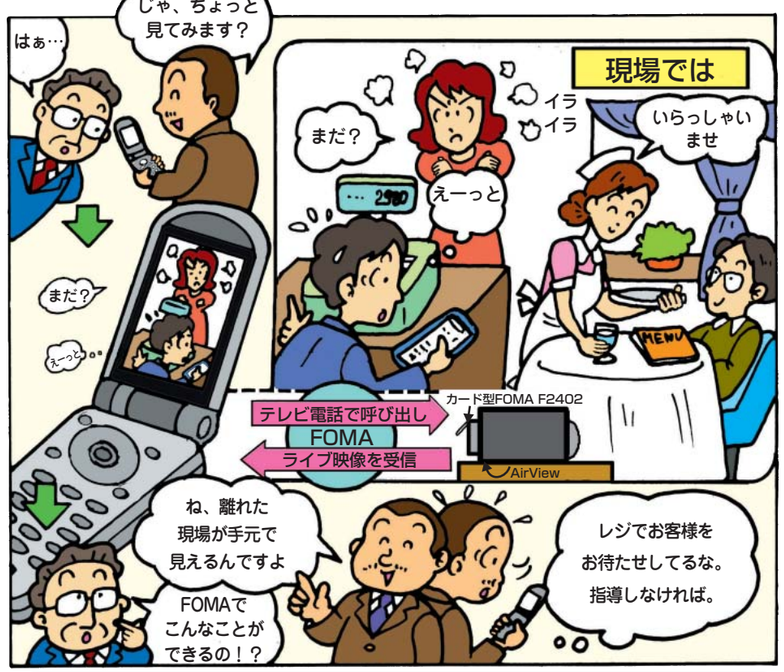
現場の様子をいつでも簡単に見られるようにするには？

前回は、FOMAを使うとビジネスがどのように円滑に進められるかを紹介した。今回は、FOMAのテレビ電話機能を使い、簡単な操作で離れた現場の映像を確認できる方法を、具体的に紹介する。

「今、現場はどうなっているだろうか。改善すべき問題は発生していないだろうか」――10店舗ほどの飲食店を運営する経営者は、店舗数が増えるにつれ、店を回ってその様子を自分の目で確認する時間が減っていることを気にかけていた。競争が厳しさを増している昨今、改善すべき状況を見逃していると顧客が離れてしまう…。

このような「離れた現場の様子がわからない」という悩みは、飲食店に限ったことではないだろう。多店舗経営を行う小売業やサービス業、また遠隔地に倉庫や工場を持つ卸売業、製造業などの経営者も同感するに違いない。

何か良い方法はないかと検討していたこの会社は、ドコモの「FOMA（フォーマ）」を使うことで簡単に問題を解決してしまった。



FOMAを使えば現場の映像が手元で見られる

この経営者は必要なときに店舗に設置したFOMAに電話をかけるだけで、現場の様子を確認できるようになったのだ。

使ったのはFOMAのテレビ電話機能だ。店舗側にライブカメラ「AirView」を設置し、カード型のFOMAを接続し、ACアダプターをつなげばセットは完了。あとは手元のFOMAからカード型のFOMAに電話をかけるだけだ。

設置も操作も簡単・便利

最近は、インターネットに接続できるカメラ（ネットワークカメラ等）が普及し、現場の様子をパソコンで見るシステムも身近になってきた。

しかし、それほど大掛かりな設備はいらないし、そもそも外を飛びまわって、社内でパソコンを使う時間が少ないという経営者も多いだろう。

FOMAのテレビ電話なら面倒な配線も必要なく、タクシーに乗っているちょっとした時間に電話をして、現場の様子を見ることができるのだ。

この飲食店の経営者は混雑状況や従業員の顧客対応状況などをリアルタイムにつかむことで、店舗経営や従業員教育に活かしている。実際に店舗に足を運んだときも、状況をつかんでいるから指導がしやすいそうだ。

棚割りチェックや工場内における状況把握に

FOMAのテレビ電話機能とAirViewの活用は、もちろん飲食店に限ったことではない。

例えば小売業では店頭の様子や棚割、商品の売れ行き把握に活用している例が増えている。また、流通在庫をチェックする卸売業、工場内の様子を確認する製造業など、自社の課題に応じた様々な利用が広がっている。

現場の映像をライブで見るなど、少し前までは高額な費用がかかるものだったが、FOMAの登場により、簡単にかつ少ない費用で実現できるようになった。

この便利なツール、あなたの会社ではどんな風に使えるだろうか？

AirView とは

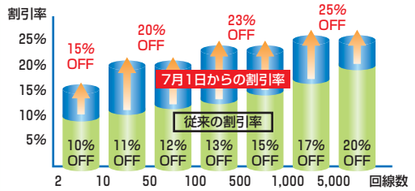
AirView2はナナオ製FOMA対応のライブカメラ。カード型「P2402」および「F2402」と組み合せることで、テレビ電話対応のFOMAから音声も含めたライブ映像を見ることができる。

相手先電話番号による着信制限機能に対応しているため、指定した電話番号以外からのアクセスを遮断でき、セキュリティも安心だ。

NTTドコモからのお知らせ

「ビジネス割引」の携帯電話の割引率が大幅アップしました

2004年7月1日利用分より（2004年8月ご請求分より）



FOMA、movaを法人名義で2回線以上ご契約で、一括請求を利用しているお客さまへの基本料金割引率がアップしました。詳細は、下記HPをご覧ください。

お問い合せ先

株式会社NTTドコモ

ドコモの法人向けサイト Business Online

PC版 http://www.docomo.biz/2c/

iモード版 http://m.docomo.biz/2c/

ケータイで撮るだけで「Business Online」へ簡単アクセス

対応機種は、900iシリーズ・506iシリーズ・505iSシリーズ・F505iGPS・F505i・SH505i・SH252iです。（6月25日現在）

※読取方法は、各機種の取扱説明書をご覧ください。

※傷、汚れ、破損、光の反射などによっては読み取れない場合があります。